

第2学年保健体育科学習指導案

学 級：2年C・D組女子（C組17名、D組17名、計34名）

指導者：高橋 厚沙

1 単元名 保健編3章 傷害の防止

教材名 8, 心肺蘇生法（東京書籍 新しい保健体育）

2 単元の目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解できるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。 「知識及び技能」
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。 「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

(1) 教材観

本教材は、学習指導要領において、保健編(3)傷害の防止の(ア)から(エ)までの内容で構成されている。(ア)から(ウ)までの交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因や傷害の防止をふまえ、傷害が発生した際に、その場に居合わせた人が傷害に応じた手当を迅速かつ適切に行うことで、傷害の悪化を防止できるということを理解し、万が一のために備えておくことに適している。補助教材として、人体模型とAEDを使用し、生徒に体感させる。また、ICTを活用し、映像等を見て、命の大切さを再確認させたい。

(2) 生徒観

小学校では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血などの簡単な手当などを学習している。前単元においては、交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因や傷害の防止の学習経験がある。また、応急手当の意義を学習し、傷害の状態に応じた手当が必要だということを理解している。

(3) 指導観

個人AR（アクションリサーチ）

効果的なペア・グループ学習を通して、意欲的に課題解決を目指す生徒の育成

危険予測をし、傷害を防止しようとしても、傷害が発生してしまうこともある。また、交通事故や人が突然倒れるなどの場面に遭遇することもないとは言えない。もし、自分がそのような状況にあった時、心肺蘇生法や傷害の悪化防止の方法を理解していれば、人の命などを助ける力になるかもしれない。

本教材では、応急手当の技能の習得だけではなく、実際に起こりうる日常生活を想定し、各グループで課題を解決する方法を考え、学びを深め、実践力を身に付けさせたい。生徒自身が、これからの実生活に活かせるような生きる力を育成したい。

また、本教材は「生死に関わること」を取り上げていることから、無理に実習させることはせず、生徒個々の気持ちに寄り添った指導や支援を行う。

4 単元の指導及び評価計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや、応急手当には止血や患部の保護や固定があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。</p> <p>②心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AEDの使用などの心肺蘇生法があり、その方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、実習を通して胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。</p>	<p>傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p>	<p>傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

(2) 指導と評価の計画（4時間）

時	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価方法等）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急手当による傷害の悪化防止について理解することができるようにするとともに、包帯法や止血法として直接圧迫止血法ができるようにする。 ・ 応急手当の意義や方法について、学習ノートにまとめ、ペアで包帯法と直接圧迫止血法を実践する。 	態知①	○	観察(包帯法、止血法) 学習ノート(授業後)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心肺蘇生法について理解することができるようにするとともに、胸骨圧迫やAED使用などの心肺蘇生法をできるようにする。 ・ 応急手当の手順や心肺蘇生法の行い方を教科書や視聴覚教材で確認し、実践する。 	知① 知② 態	○	観察（心肺蘇生法） 学習ノート(授業後)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心肺蘇生法について、自他の危険予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合うことができるようにする。 ・ 傷害が発生するさまざまな場面を想定し、その状況に適した応急手当の方法と手順や、危険を予測して回避する方法などをグループで話し合う。 	思		ロールプレイング 観察(状況に応じた対処方法) 学習プリント(授業後)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急手当の意義と実際について、今まで学習したことを学習ノートに自分でまとめることができる。 ・ 単元を通して学んだことをこれからの生活にどう生かしていくか等を学習ノートにまとめる。 	知② 態	○	観察 学習ノート(授業後)

5 本時の指導（3時間目／全4時間）

（1）本時の目標

心肺蘇生法について、課題解決に結び付けるためにグループで話し合い、状況に応じた適切な方法を見い出していくことができるようにする。 「思考・判断・表現」

（2）本時の評価基準

おおむね達成	未発達の生徒への支援・手立て
応急手当の方法と手順や、危険を予測し、回避する方法について、学習したことをそれぞれの場面にあてはめている。	前時までの学習したことについて、プリント等を見て振り返らせたり、状況を想定できるような助言を伝えたりする。

（3）本時の指導構想

状況に応じた応急手当の方法を各グループで話し合い、より良い方法を見つけ出し、課題解決に結び付けさせる。他のグループの発想を認め、自分の知識として取り入れていけるようにする。また、二次災害で自分自身にも被害に遭わないことに着目し、適切な方法を考えさせたい。「いわての授業づくり3つの視点」の視点2「学習課題を解決するための学習活動」に重点を置き、グループでの言語活動を通して、考えを深めさせたい。

めざす生徒の姿（研究協議の柱）

自分の考えを、友だちの考えと比べながら見直し、よりよい考えに修正しながら、理由や根拠がわかるように表現している。

(4) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (◇評価)
導入 10分	<p>1 前時の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 心肺停止した人の救命率を確認する。 心肺蘇生法の手順や方法の復習をする。 <p>2 問題提起</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな状況で傷害が起こりうることを確認する。 <p>3 学習課題の設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】状況に応じた応急手当の方法を考えよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> その場に居合わせた人の迅速で適切な応急手当が救命の可能性を高めることを再確認させ、学習活動につなげる。 日常生活でどんな状況で起こり得そうか想定させる。 自分の考えだけでなく、グループ全員で、より良い方法を考えるよう促す。
展開 30分	<p>4 学習活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①教室で友達が倒れた。 ②真夏の炎天下、サッカーの部活動中に仲間が倒れた。 ③水泳の授業中、友だちが溺れて浮かんでいた。 ④交通量の多い交差点で事故が起き、足から多量出血して倒れている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 各事例の状況を把握し、どのような対処が適切か、気を付けるポイントは何か、グループで話し合う。 役割分担をし、実際に傷病者発見する場面から想定してロールプレイングする。 他のグループを見て、工夫していた点やより良い方法がないか伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習したことを活かし、より良い応急手当についてグループで意見を出し合い、課題解決につながるように声かけをする。 <p>【観察】 ◇思考・判断・表現</p>
終末 10分	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 状況に応じた対処方法をプリントにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①誰が何をするのか、役割分担をしっかりと伝える。 ②熱中症も視野に入れ、日陰に移動させ、冷却する。 ③タオルで水を拭く。体を隠してあげる。 ④安全な場所へ移動させる。患部を止血する。</p> </div> <p>6 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を通して、これからの自分が気をつけていくべきこと、大切にしたいこと等を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【期待される生徒の言葉】 このような状況が起きないことが1番だが、もし遭遇してしまったときは実習で学習したことを活かし、自分から率先して人の命を助けたい。</p> </div> <p>7 次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回の学習内容を確認し、見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習を通して、学んだことを確認しながら板書し、プリントにまとめるよう促す。 可能な限り生徒の言葉を用いながら、まとめを行う。 実習したことから、これから自分の生活にどう活かしていくか、自分の言葉で記入するよう促す。 止血法、包帯法等の手順や方法を再確認する予告をする。

6 板書計画

